

岩手県在宅保健活動者連絡協議会

会報ひまわり

第 32 号

令和 7 年度岩手県在宅保健活動者連絡協議会総会及び研修会



令和 7 年度岩手県在宅保健活動者連絡協議会総会及び研修会が令和 7 年 5 月 9 日に開催され、22 名の会員が出席しました。

総会では「令和 6 年度事業報告」及び「令和 7 年度事業計画」が承認されました。

また、研修会では参加者が 4 グループに分かれ意見交換会を行ったほか、東京都立大学人文社会学部 大井 慈郎 先生から、「高齢者サロン調査からみえてきたこと」と題してご講演をいただき、協議会の充実に向けて学びを深める研修となりました。



会長あいさつ

岩手県在宅保健活動者連絡協議会

会 長 佐々木 順子

会員の皆様におかれては、
ご多忙の中、多数お集まりいた
だき感謝申し上げます。



2 月には大船渡市の山林火災が
発生した。連日の報道をテレビで見て、自分の
生まれも近いので胸が痛かった。皆さんの中
には家族や知人で被災された方がいるかもしれ
ない。お見舞いを申し上げます。

また、最近は寒暖差が激しくインフルエンザ
が流行し、学級閉鎖になった小中学校もあると
聞いている。改めて、感染防止として手洗いの
励行が大事だと感じている。

昨年度の挨拶でも話したが、新加入の方もい
るので、活動に自信と誇りを持っていただきた
いと思い在宅保健活動者連絡協議会の設立の
経緯について話す。

在宅保健活動者連絡協議会は、平成 10 年頃
より国保中央会が新国保 3%の推進運動の展開
に合わせ、市町村支援のためのマンパワーとし
て各県在宅保健師等会の設置が促進された。ま
た、「国民健康保険法に基づく保健事業の実施
等に関する指針」によると、「国民健康保険団体
連合会は、診療報酬明細書等情報等を活用した
医療費分析や保健事業に関する調査及び研究、
保健事業の実施体制を強化するために、保険者
に対し、在宅保健師等の派遣、専門的な技術ま
たは知識を有する保健師等による、保健事業従
事者に対する研修の実施等、保険者が行う保健
事業の PDCA サイクルに係る取組等を支援す
る事業を行うこと」と明記されている。

本県の在宅保健活動者連絡協議会は、平成 16
年 2 月に設立され、現在、会員数は 71 名。令
和 7 年度に入り新しく 3 名が加入したが、全国
的に見ても高齢になってきている。社会情勢、
労働環境、雇用環境も変化し、70 歳を過ぎても
働ける時代となっており、新規会員が加入しな
いことは全国的にも悩みとなっている。

私は会長として、連合会や岩手県の会議に出
席している。会議には、市町村担当者や医師会、
歯科医師会、薬剤師会、栄養士会、看護協会、
歯科衛生士会、介護施設長などが構成メンバー
として参加されている。在宅保健活動者連絡協
議会は自然災害が発生した際の支援や、医療費
や介護費の適正化に向けた事業支援等、地域の
現場で活躍していることを県内の関係者に知
ってもらうことが大事だと考え、本県在宅保健
活動者連絡協議会の活動内容を紹介し、支援依
頼の際には事務局に連絡をいただきたいと伝
えている。なお、支援依頼があった際には、会
員の皆様には無理なく、自分でできる範囲で対
処いただきたい。

昨年度、会員より安定した会の活動ができる
よう地区活動への資金援助の希望があった。そ
れを受け、今年度から 1 地区 2 万円の地区活動
交付金が交付されることとなった。また、参考
とはなるが、令和 6 年度の本会の活動費の決算
と令和 7 年度の予算額が紹介されているので
後ほど参照いただきたい。交付金が継続いた
だけるよう、事務局へ熱くお願いする。

本日は、「高齢者サロン調査から見えてきた
こと」と題して都立大学の大井准教授よりご講
演いただく。先生は、一昨年まで岩手保健医療

大学におり、この調査に協力した会員もいると聞いている。地域活動を進める上で、参考になることをお伺いできると思う。

最後に、岩手県在宅保健活動者連絡協議会の会員加入の 3 つのメリットを伝えたい。

1 つ目、会費は無料である。

2 つ目、自分のスキルアップのため、無料で研修が受けられる。研修内容は役員会で協議するので地区の代表者に希望する研修を常々伝えて欲しい。

3 つ目、自分自身の心身の健康を保つことが出来る。他地域の方々との情報交換では元気をもらうことができると思う。

皆さんには、直接の声で後輩や知人、友人に加入を進めていただきたい。今後も、本協議会が継続するよう、自信を持って前に進んでいけるよう、皆様のご協力をお願いし、挨拶とする。

事務局あいさつ

岩手県国民健康保険団体連合会

総務事業部保健介護課長補佐

村松 靖

本日はお忙しい中、県内各地からご出席いただき、感謝申し上げます。

また、皆様方には、日頃より本会の保健事業に対しまして、多大なご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、国においては、令和 6 年度から令和 17 年度までの 12 年間を期間とする国民健康づくり計画「第 3 次 健康日本 21」が、また岩手県においても、「第 3 次 健康いわて 21 プラン」が、さらに市町村等においては、令和 6 年度か

ら令和 11 年度までの 6 年間を期間とする「第 3 期のデータヘルス計画」が、それぞれスタートして 1 年が経過し、「健康寿命の延伸」、「脳卒中死亡率の全国との格差の縮小」という全体目標の達成を目指しているところである。

本会では、市町村等が策定した「データヘルス計画」が PDCA サイクルに沿って効果的・効率的に事業が展開できるよう「保健事業支援・評価委員会」を設置し、「個別保健事業に係る支援」として 4 保険者に対し、また、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に係る支援」として 3 保険者に対し、委員からの助言を行ったほか、事前打合せやフォローアップを行うなど、連携を図りながら保険者支援をさせていただいた。

会員の皆様方には、今後の各地区・各地域での活動について、これまで培ってきた専門的なノウハウを十分に発揮していただくとともに、豊富な知識と経験のもと、引き続き、地域住民の健康づくりの支援や、市町村等の保健事業の支援にお力添えをいただきたい。

本日の総会では、令和 7 年度の事業計画をはじめとする議案のご審議をよろしくお願いする。また、そのあとの研修会では、東京都立大学 人文社会学部 准教授 大井 慈郎 先生から、「高齢者サロン調査からみえてきたこと」と題して、ご講演を行っていただく予定としている。

本日の総会、研修会をとおして、皆様方がより効果的に事業を展開されるよう、また、実りあるものとなるよう祈念し、開会にあたっての挨拶とする。



令和 7 年度総会

◆ 総会 ◆

議長に盛岡地区の千葉祥子さん
を選出し、議案審議が行われ、
全て承認されました。



報告事項

報告第 1 号

「令和 6 年度岩手県在宅保健活動者
連絡協議会事業報告について」

＜国保連合会保健事業への協力＞

- ・ 岩手県国保連保健事業推進会議会長出席
(4/17、10/23)
- ・ 岩手県国民健康保険フォーラム（後援）
(8/30)
- ・ 第 64 回全国国保地域医療学会（後援）
(10/4～10/5)

＜市町村及び社会福祉協議会等の 保健事業への協力＞

- ・ 各種がん検診の問診業務等：釜石市
- ・ 特定健康診査の問診業務等：釜石市、軽米町、一戸町
- ・ イベント参加者の救護活動：盛岡市、釜石市、久慈市
- ・ 介護予防教室に係る講師派遣：盛岡市、西和賀町

＜岩手県事業への協力＞

- ・ 地域づくりアドバイザーの派遣と協力
(4月～3月)
- ・ 令和 6 年度岩手県いい歯の日のつどい In 遠野（後援）(11/24)
- ・ 令和 6 年度岩手県介護予防市町村支援推進会議 会長出席 (12/19)

＜会報「ひまわり」の発行＞

- ・ 会報「ひまわり 31 号」発行 (7/1)

＜会議等への参加＞

- ・ 東北地方在宅保健師等会連絡会議（山形県）役員 3 名出席 (12/5～12/6)
- ・ 令和 6 年度都道府県在宅保健師等会全国連絡会 資料を役員へ提供 (2 月)

＜その他協議会に係る保健・福祉活動等＞

- ・ 「岩手県在宅保健活動者連絡協議会会員募集案内」送付 (12/23)

＜地区ブロック活動＞

○盛岡地区

- ・ いこいの家：健康相談、血圧測定等（5 回）
- ・ 「ひまわりカフェ」（6 回）
- ・ 市民体カテスト：血圧測定、救護活動（2 回）
- ・ 元気アップ体操教室：血圧測定、講話、いきいき百歳体操等（13 回）
- ・ 仙北地区子育てサロン支援
- ・ はつらつ健康セミナー：健康チェック、いきいき百歳体操、講話（2 か所）
- ・ ボランティアまつり(活動紹介)
- ・ 国保連職員健診事後指導
- ・ アクティブ・シニア交流会での活動発表と他団体との交流
- ・ 定例会（6 回）

○花巻地区

- ・ 介護予防教室「歯つらつ健口教室」（5 回）
- ・ 花巻とうゆう会支援（4 回）

○久慈地区

- ・ 定期オレンジカフェ：健康相談、健康チェック、押し花等（10 回）

- ・ 出前保健室：健康チェック等（3 回）
- ・ 福祉まつり
- ・ イベント救護（2 回）

○二戸地区

- ・ 一戸町特定健診実施の支援（問診）
（延べ 18 日）
- ・ 軽米町特定健診実施の支援（問診）
（3 日間）

○沿岸地区

- ・ 釜石市、特定健診・がん検診（乳、肺、子宮）問診等（延べ 44 回）
- ・ 釜石市、学童野球救護

○県南地区

- ・ サロン：認知症予防（3 か所、30 回）
- ・ 百歳体操：フレイル予防、認知症予防
（2 か所、91 回）
- ・ ヨーガで健康づくり（3 か所、89 回）
- ・ 重度障害者団体支援（2 回）
- ・ 自分の足でいつまでも歩くために（4 回）
- ・ 認知症サポーター養成講座
- ・ 交流会 7 回、通信発行 6 回



総会では活発な意見交換が行われた

議決事項

議案第 1 号

「令和 7 年度岩手県在宅保健活動者

連絡協議会事業計画について」

令和 7 年度事業計画

Ⅰ 基本方針

市町村における保健・福祉活動の重要性を認識し、住民の健康づくりを支援するため、豊富な知識と経験を活かし、地域の保健・福祉活動に寄与するとともに、会員の資質向上と親睦を図るため下記の事項を推進する。

Ⅱ 目標

1. 高齢者の健康づくりについて、介護予防の面から支援する。
2. 地域の食育活動をととし、若い世代からのメタボリックシンドローム等の対策につなげる。
3. 保健推進委員や食生活改善推進員等の住民組織活動を協力・支援し、地域保健活動のさらなる活性化につなげる。

Ⅲ 具体的実施事項

1. 役員会等の開催
 - ・ 役員会 年 2 回（11 月、3 月）
2. 総会の開催
 - ・ 総会の開催 年 1 回（5 月）
3. 研修会の開催
 - ・ 研修会の開催 年 1 回（総会時）
4. 国保連合会保健事業への協力
 - ・ 岩手県脳卒中予防県民大会への協力

- ・ 岩手県国保連保健事業推進会議への参画
- ・ 岩手県国民健康保険ファームへの後援
- 5. 市町村及び社会福祉協議会等の保健事業への協力
- 6. 岩手県事業への協力
 - ・ 地域づくりによる介護予防推進支援事業に係るアドバイザー推薦及び事業協力
 - ・ 岩手県介護予防市町村支援委員会への参画
- 7. 会報「ひまわり」の発行
 - ・ 年 1 回の発行（7 月）
- 8. 会議・研修等への参加
 - ・ 東北地方在宅保健師等会連絡協議会
 - ・ 都道府県在宅保健師等会連絡会
- 9. 会員相互の情報交換
 - ・ 地区ブロック単位の電話連絡網の活用
- 10. その他、協議会が係わる保健福祉活動等
 - ・ 新会員加入促進に向けた取組み

地区活動の充実にむけて

◆ 意見交換会 ◆

参加者が 4 グループに分かれて「地区活動をする上での課題」をテーマに意見交換を実施しました。

全体報告では、体操等を実施するために集まる場所がないことや、サロン活動に係る会費についてが、課題として挙げられるが、市町村や自治会、社会福祉協議会等も活用しながら活動できると良いかもしれない各との意見も出されました。

< 会員の声 ～総会・研修会アンケートから～ >

- ・ 各地区の実情を知ることが出来た。改めて自分が健康であることが大事だと感じた。
- ・ 互いの活動内容や考えを聞くことができ、とても参考になった。



その他：報告

「令和 6 年度地域づくり

アドバイザー事業について」

本協議会が、平成 29 年から岩手県事業の協力として行っている「地域づくりアドバイザー事業」について、県南地区地域づくりアドバイザーの阿部恵美子さんより、令和 6 年度の活動内容を報告いただきました。



報告をする阿部恵美子さん



講演中の様子



サロン活動継続の重要性を学ぶ

◆ 講演 ◆

「高齢者サロン調査から みえてきたこと」

講師：東京都立大学
人文社会学部

准教授 大井 慈郎 氏



「高齢者サロンの担い手を対象としたアンケート調査」を行った背景として、近年の地域包括ケアシステムをはじめとする「地域で介護予防を行っていこう」とする高まりや期待に対して、まずは地域の状況を把握し整理することを目的として行ったことを説明されました。

調査結果として、高齢者サロンの立ち上げや運営には、自治会が大きな役割を担っていること、活動内容として軽体操や健康チェック、お茶飲み会から季節のイベント開催等まで多岐にわたること、また課題として、担い手の後継者不足や男性参加者が少ないことが挙げられると説明されました。

最後に、サロンに継続して参加することで要介護状態になる確率が低下すること、フレイル発症リスクが下がることや、参加者の生存確認ができることに触れ、会員の皆さんが現在行っているサロン活動を無理しない範囲で継続して欲しいと話されました。

＜ 会員の声 ～総会・研修会アンケートから～ ＞

- ・「参加者の生存確認ができれば必要最低限 OK」という点、サロン活動のハードルが下がって良いと思いました。
- ・調査に参加したので、結果を知ることができて良かったです。

令和 7 年度事業計画

地区	内容
盛岡	盛岡市：市民体力テスト支援（参加者の血圧測定等）、スポーツ・レクリエーション祭（参加者の血圧測定等）
花巻	西和賀町：高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業（歯科衛生士による講話及び実技指導）
久慈	・ 定期オレンジカフェ 毎月 1 回（健康相談、作品づくりなど） ・ 出前オレンジカフェ 年 3 か所 ・ 大会等救護活動 ・ 各種委員（健康づくり委員、久慈地域包括支援センター運営会議） ・ 情報交換等打合せ会
二戸	・ 特定健診等支援（受付、問診票確認、誘導等） 一戸町：4 月及び 9 月 軽米町：6 月 ※この他、管内自治体等からの依頼に随時対応することとします。
沿岸	釜石市：イベント開催に伴う救護、特定健康診査等の問診、事務補助
県南	4 月 総会と船下り及び昼食会 6 月 講演及び交流会 8 月 RFL 準備 9 月 RFL 参加 10 月 研修会及び交流会 12 月 栄養教室 2 月 次年度計画



令和 6 年度東北地方在宅保健師等会連絡会議

令和 6 年 12 月 5 日、6 日に山形県において
参集開催され、東北各県より在宅保健活動者が
約 60 名参加しました。本県からも 3 名の役員
と事務局が出席しました。

<1 日目>

○講演「健幸に過ごすために

～生活習慣を見直そう～」

山形大学大学院医学系研究科公衆衛生学・衛生学講座

教授 今田 恒夫 氏

○講演「コモを防いで伸ばそう健康寿命！」

公立置賜総合病院リハビリテーション部

技術長（作業療法士） 井上 健 氏

○報告「都道府県在宅保健師等会全国連絡会役
員会報告について」

都道府県在宅保健師等会全国連絡会役員

福島県在宅保健師の会「絆」

会長 丹野 由美子 氏

<2 日目>

○講演「(国保) 保健事業を取り巻く動向とこれ
からの在宅保健師等会の活動を考える」

国民健康保険中央会保健福祉部保健事業課

参事 山口 道子 氏

○グループ別情報交換

<参加者の感想>

現場の保健師より、「国へ提出する書類作成に
追われ、地区の課題がわからない」と聞いてい
ました。情報交換でも各県会長より「現場の保
健師が住民への接し方や導入がうまくいって
いない」と意見が出され、保健師本来の活動が
出来ていないと感じました。私達は現場の保健
活動支援を通じ、情報交換を行いながら何が出
来るのか模索していくことが必要と感じた会
議でした。

(会長 佐々木 順子)

講演では、AI を活用した生活習慣の見直しがで
きるシステムや、毎日続けられそうな体操等につ
いて説明があり、とても参考になりました。
学んだことを住民に伝えていきます。また、地区
で発行の会報に記載し会員に伝えました。

なお、本会議の参集開催は今年度で終了し、今
後は Web 開催となるそうです。実際にお会い
する機会がなくなるのは寂しいです。福島県の
会員である同級生に久々に会えたこともうれ
しい出来事でした。(副会長 小野寺 ヨシ子)



開催県の山形県のダンスや花笠音頭の余興がありました

久しぶりの参加でした。どの講演も勉強になり
ましたが、「口コモを防いで伸ばそう健康寿
命！」の講演は、地区で取組む 100 歳体操に関
連し参考になりました。

情報交換では、各県が「会員の確保」を課題に
挙げ、それに対し山口参事より「まずは目の前
の自分達の活動を楽しんで欲しい」と助言があ
り、その通りだと思いました。年齢を重ね、ど
こまで動けるか心配になりますが、年齢に応じ
た活動を楽しくやっていきたいと改めて思い
ました。(幹事 佐々木みや子)



出席役員
右から、小野寺副会長
佐々木会長
佐々木（み）幹事



令和 6 年度都道府県在宅保健師等会連絡

- 講演「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について」

厚生労働省保険局高齢者医療課

一体的実施調整官 宇野 薫 氏

- 講演「介護予防に関する国の動向について」

厚生労働省老健局老人保健課

予防栄養調整官 斉藤 陽子 氏

- 事例発表1「秋田県在宅保健師等『ゆずり葉の会』の活動について」

秋田県在宅保健師等会

(令和6年度保健文化賞受賞団体)

会長 本間 美佐子 氏

- 事例発表2「和歌山県在宅保健師の会『てまりの会』の取り組みについて」

和歌山県在宅保健師の会

会長 高垣 通代 氏

- 事例発表3「愛媛県在宅保健師等会の再設置からの活動状況について」

愛媛県在宅保健師等会

会長 栗栖 美代子 氏

<聴講した会員の感想>

- ・秋田県の活動報告から、これまで積み重ねてきた活動が市町村や会員間との信頼関係の構築につながっていると感じた。これまでの活動に敬意を表します。
- ・愛媛県の活動報告から、改めて在宅の会は市町村に求められているものだと感じた。自分たちも頑張っていきたい。

地区活動紹介～花巻地区～

本協議会は、県内を以下の6つの地区に分かれて活動しています。会員は主に居住市町村の地区に所属し、地域の身近な専門職として、地域の保健活動支援や、自主活動を行っています。

今回は、「花巻地区」で行っている「元気でまっせ体操」と、いきいき岩手支援財団のご近所支え合い運動助成金を活用して行った健康づくり事業「花巻とうゆう会（花巻糖尿病の会）」の活動を紹介します。

地区名	該当市町村
盛岡	盛岡市・八幡平市・滝沢市・ 雫石町・葛巻町・岩手町・ 紫波町・矢巾町
花巻	花巻市・北上市・遠野市・ 西和賀町
久慈	宮古市・久慈市・岩泉町・ 田野畑村・普代村・洋野町・ 野田村
二戸	二戸市・軽米町・九戸村・ 一戸町
沿岸	大船渡市・陸前高田市・ 釜石市・住田町・大槌町・ 山田町
県南	奥州市・一関市・ 金ケ崎町・平泉町



○花巻地区

狩野 和子

1. 元気でまっせ体操 (会場：高木小路公民館 回数：週 1 回 参加人数：17～18 人)

花巻市が介護予防のために市内の各自治公民館等での開催を推奨し 7 年前から開催している。参加者からは体が軽くなった、歩行が楽になった、皆と逢って会話することが楽しい等の声が聴かれた。

2. 花巻とうゆう会の主催する健康づくりセミナーへの参加 (回数：5 回 栄養、運動、休養に基づくもの)

～花巻とうゆう会（花巻糖尿病の会）とは～

糖尿病についての知識を向上させ、療養上の経験を話し合い、自己管理の重要性を認識し安否確認のもとに親睦を深めることを目的とする 1987 年に行政の支援のもとに設立し現在に至る。コロナ禍で、4～5 年実質的な活動はほとんどできていなかった。この間会員の高齢化、減少で継続していくのが困難になった。糖尿病が増えている状況の中、重篤化の防止を図り、広く学ぶとともに健康、長寿の街づくりをめざし、県の高齢者いきいき財団より助成を受け、昨年度 1 年間の計画を立て実施した。

(1) 楽しく学んで防ごう生活習慣病 2024 年 6 月 27 日 学び学園 AV ルーム
指導医師：照井虎彦先生

(2) 「作ってみよう超うま！簡単！！料理」2024 年 10 月 4 日 保健センター
管理栄養士、食生活改善推進委員



食生活改善指導員の千葉さんの指導で調理開始。デザートを含め 5 種類作りました



(3) 秋の運動イベント 2024 年 10 月 27 日 花巻市総合体育館 花巻とうゆう会通信の発行
運動指導員 及川れいこ先生 おいしい空気を吸って、紅葉を見ながら健康に！



及川先生の指導で歩き方のフォーム、姿勢を確かめながら青空ウオーキング

(4) 聞いて笑って元気に 2024 年 11 月 10 日 花巻保健センター
指導薬剤師 坂本秀樹さん いっぱいためになる「薬の話」
講談師 地伏亭金目さん 楽しいお話「地産地消」



「地産地消」のお話

(5) さあ、春！元気に過ごしませんか？ 2025 年 3 月 4 日 保健センター
健康教室へのお誘い、春は「詐欺注意シーズン」



元気に過ごすために！

春になり暖かくなると、心も体も植物と同じくうれしい心地になりのびのびしてきます。2 月に宅配の牛製品を飲用したら顔が赤くなり、休んで飲んでもやっぱり体に変調があり本日（3/17）断わりました。アレルギーと無縁でしたが、体も弱って来るのかと思っています。（紫波町）

メディアや科学の進化の加速と高齢人口の増加、少子化により社会が大きく変動している今、ボランティア活動も人の健康を支援する技能を研さんして行く必要を感じる日々です。そして笑顔で繋がりましょう。（盛岡市）

お米の値段に驚き、電気料金に頭を抱え、スーパーでも悩みながらおかずを決めている毎日です…（釜石市）

会員の声

盛岡地区では 7 年度に独自活動（介護予防活動）を 2 つ行うことになりました。みんなで頑張っていきたいと思います。（盛岡市）

1 年間イオンでの活動から小グループながらサロン活動のグループが産まれました。今年度（7 年度）復興住宅で百歳体操を中心とした集まりを試みる予定です。推薦いただき地域づくりアドバイザーとして盛岡地区の市町村の活動と関わる機会を得ました。地域づくりの取り組みが浸透していることを感じました。アドバイザーとして何ができるのか疑問がありますが、個々の取り組みが県全体の介護予防の力となっていることを伝えていきたいと思っています。（滝沢市）

前夜、バアバアとボール授け受けを存分に遊んだ次男の長男（仙台市）。翌朝登園直前、バアバア行かないでとワンワン泣いていた孫。バアバアこれから仕事に行くと話したら、ピタリと泣きやみ手を振って登園。翌日のラインで帰宅した孫はバアバアいないと大泣きしている動画を送ってきました。

こちらもボロボロ涙。4 月から名古屋の新 1 年生となる孫。4 月からの新スタートに自身に活を入れています。（紫波町）

退職後、予防的フットケアの個人事業「爪切りパチパチ wako」を開業し、介護予防、足病予防に取り組んでいます。足元から健康を支援、セミナーやイベント、講演もさせていただいています。爪のトラブルや、うおの目、タコでお悩みの方はご相談ください。（一関市）

セルフケアの時代と言われますが、保健師として勤め始めた 50 数年前も国保のスローガンは「自分の健康は自分で守りましょう！」でした。昔も今もセルフケアが大事とか。今も昔も何にもかわらないと年齢の積み上げで、後期高齢者の 2 年生だたと足腰の弱った自分をふりかえり、テレビの CM や番組で元気となった「気」で通している毎日です！！（一関市）

新年度が始まると、又忙しい季節を迎えますが身体の方がなかなかついていけなくなっている現状ですが、皆さんからの情報をいただける場がありますので、老体にむち打って頑張りたいと思います。今後よろしくお願いいたします。（一関市）

お知らせ

新会員募集中！

～一緒に学び、活動してみませんか？～

「岩手県在宅保健活動者連絡協議会」
は、専門職としての豊かな経験を生かし、
市町村をはじめとする地域の健康づくりに
取り組んでいます。

保健事業支援に必要な研修や情報提供、
会員相互の交流をはかりながら楽しい活動
を目指しています。

<入会の要件>

- ・県内で活動できる保健師・看護師（准看護師）・管理栄養士（栄養士）・歯科衛生士・助産師の資格を有する方

※臨時・嘱託で勤務されている方も入会できます

◆◆◆お問合せ、入会につきましては、
事務局までご連絡ください。◆◆◆



会員登録状況

（令和 7 年 6 月末時点）

会員 69 名



令和 6 年度は 4 名が
新加入しました！

保健師	28 名
看護師・准看護師	24 名
管理栄養士・栄養士	8 名
歯科衛生士	7 名
助産師	2 名

担 当 岩手県国民健康保険団体連合会 総務事業部 保健介護課 保健係
住 所 岩手県盛岡市大沢川原 3 丁目 7 番 30 号
TEL 019-623-4324 FAX 019-622-1668